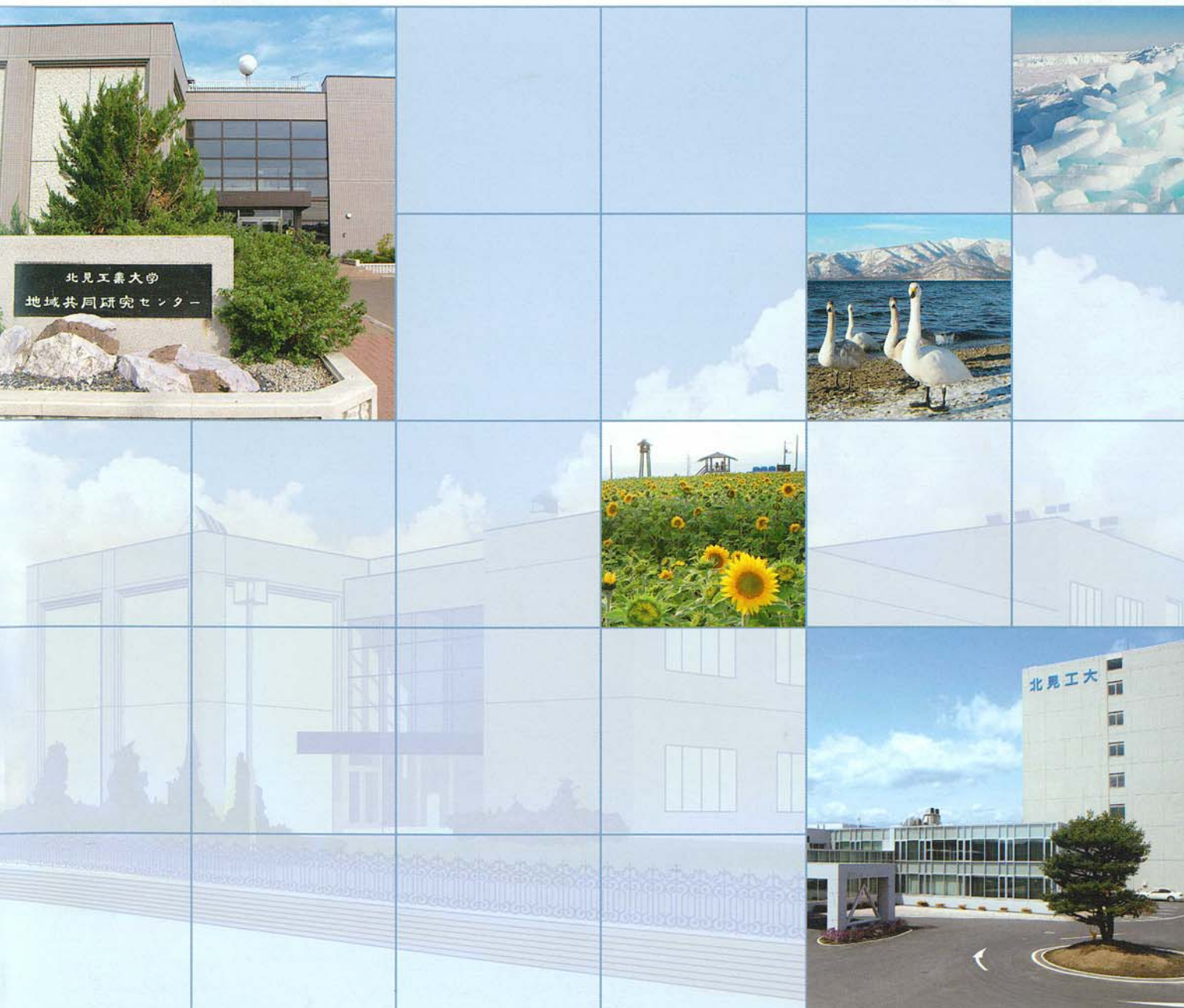


国立大学法人 北見工業大学 地域共同研究センター

概要



挨拶



地域共同研究センター センター長
川村 彰 (社会環境工学科教授)

地域共同研究センターは、大学の活動面を通じた社会貢献活動を推進しています。北見工業大学の窓口として、民間機関など学外の皆様との産学官連携活動を展開しております。産学官連携を推進するすべての活動においてご活用ください。



地域共同研究センター
教授 鞘師 守 (知的財産本部長)

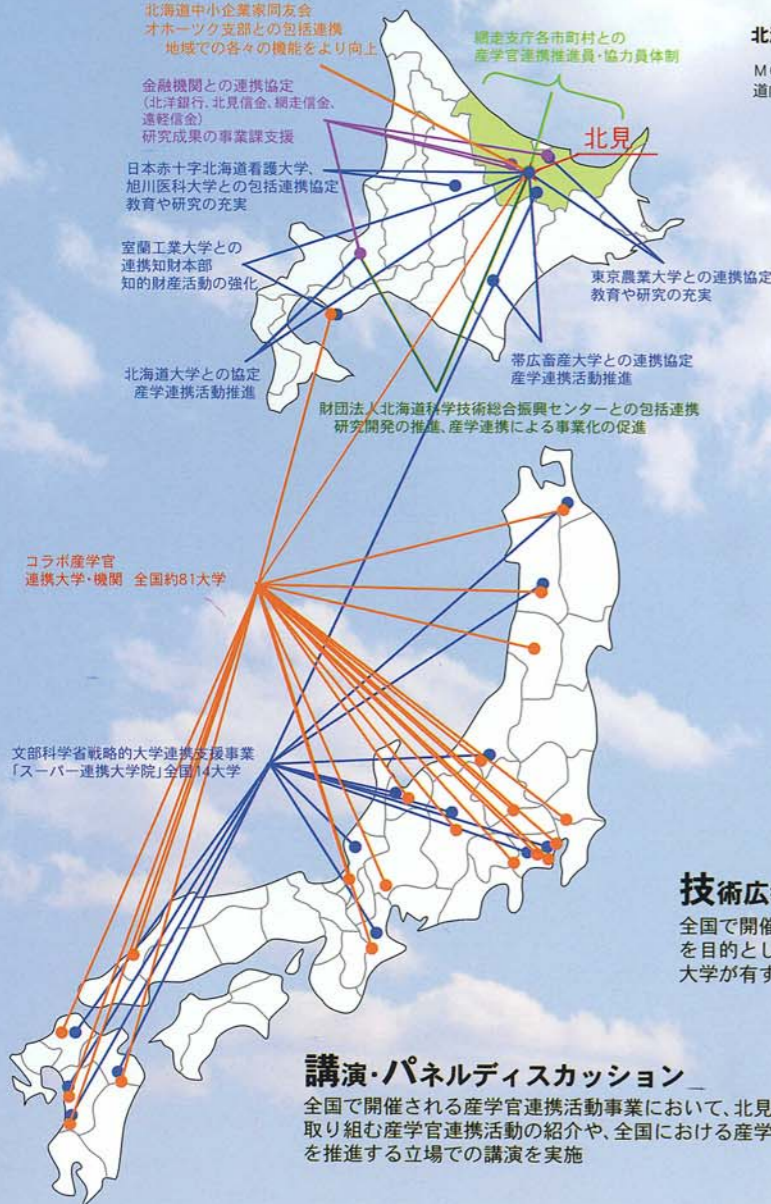


地域共同研究センター
教授 有田 敏彦

設立趣旨

北見工業大学では、従来から民間機関など学外の皆様と種々の形態で連携し、「地域連携・社会貢献」「共同研究推進・研究支援」を目的とし、産学官連携活動を推進しています。北見工業大学地域共同研究センターは、社会の各方面から寄せられる多様な期待と要請に応え、大学の活性化を図るとともに、真に開かれた大学としての役割を果たすために平成4年4月に設置されました。以来地域共同研究センターは、北見工業大学の社会貢献を担うセンターとして、様々な産学官連携活動を展開しています。

北見工業大学の産学官連携体制



北海道MOTコンソーシアム推進協議会

MOT人材育成およびMOT教育を推進することを目的に、道内の13大学、6支援機関等で構成

北見市

北見工業大学

北見市産学官連携推進協議会

北見地域での新産業創出や地場企業の販路拡大を推進することを目的とし、北見市、市内の経済団体、大学などが集まり設立した地域の産業振興推進組織

北見工業大学地域共同研究センター推進協議会

オホーツク地域の行政並びに民間機関との共同研究、研究交流及び技術の指導・教育・開発等を推進することを目的とし、北見市が中心となり設立した地域共同研究センターの支援機関

地域振興関連委員

地域社会との連携事業における委員活動を展開

技術広報

全国で開催される技術移転や産学官連携マッチングを目的とした展示会への出展をはじめとし、北見工業大学が有する技術広報活動を展開

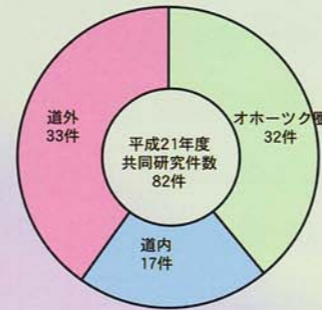
講演・パネルディスカッション

全国で開催される産学官連携活動事業において、北見工業大学が取り組む産学官連携活動の紹介や、全国における産学官連携活動を推進する立場での講演を実施

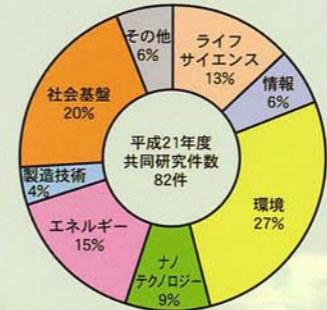
●共同研究

平成21年度に北見工業大学で実施された共同研究は82件です。研究者(助教以上154名)一人あたり0.5件以上の共同研究を実施していることになります。本学の研究者一人あたりの共同研究件数は全国の大学の中で常に上位に位置しています。

平成21年度共同研究受け入れ地域別分布



平成21年度共同研究分野別分布



共同研究の推進

インキュベーション

起業家育成、新規事業支援、創業支援などのインキュベーション機能を有しています。

●大学発ベンチャー企業

- ・株式会社はるにれバイオ研究所
- ・企業組合北見産学医協働センター

産学官連携支援機関

●オホーツク産学官融合センター

オホーツク圏の産業振興を図るため、地域中小企業の研究、事業化等を支援する様々な機能・組織を融合させるワンストップサービス拠点です。

●独立行政法人 中小企業基盤整備機構

北海道支部 北見オフィス

オホーツク圏において中小機構の各種事業や専門家による経営相談事業などを積極的に展開します。

●北海道知的財産情報センター北見サテライト

経済産業省北海道経済産業局、北海道など5つの公的機関では、平成17年、札幌に知的財産に関する総合相談窓口「北海道知的財産情報センター」を開設し、様々な相談に対応しています。平成20年には本地域共同研究センターにテレビ会議システムを設置し、5つの公的機関の相談員が無料で知的財産に関する相談に対応する北見サテライトが発足しました。



テレビ会議システムを利用した技術相談

●大型ソーラーシミュレータ

太陽光に近似したスペクトルと赤道直下での日射に相当する照度を得られる装置です。実用に近い規模の実験を屋内にて行なう大学としては国内最大級の設備です。



●低温域材料・構造実験システム

寒冷地工学の拠点である本学の代表的な実験施設です。寒地の自然環境とそこで発生する各種構造物の技術的課題を研究するための総合試験システムです。-30℃までの低温環境を再現します。



●プラズマ質量分析装置

ppt(1兆分の1)レベルで50種類にも及ぶ各種元素を迅速に定性・定量分析する装置です。環境モニタや水質検査などにおいて水溶液中の元素を分析するだけでなく有機溶媒中の元素も測定します。

●多孔性固体試料評価システム

セラミックス材料、炭素材料等の多孔性固体試料の機能性評価を行なうシステムです。

地域共同研究センター 運営・活動・機能

ミッション
社会との連携事業展開
技術広報
講演
地域振興関連委員

研究設備

外部資金導入の推進

文部科学省科学技術振興調整費
地域再生人材の形成
「新時代工学的農業クリエーター
人材創出プラン」事業

本事業は、北見の地域特性を活かし、第一次産業地帯にある工業大学として、
・建設業関連業界から第一次産業関連業種への業種転換を実現すること
・工学を活かした循環型・環境調和型の一次産業を創り出すこと
・農林水産業とその製品の安心・安全、健康を考慮した新規食品事業を創り出すこと
などを担う人材、工学的農業クリエーターを二年度に跨り育成するものです。地域共同研究センターが中心となり、事業を展開しています。(平成18年度～22年度)



産業官連携を推進するための制度

産業官連携活動を推進するための、共同研究をはじめとした制度についてご紹介します。

共同研究制度

共同研究とは？

産業官民間機関等が研究費を負担し、大学と民間機関等の研究者や技術者が協力して研究を行なうものです。

- ・大学が研究費の一部を負担する場合があります。
- ・必ずしも大学に人を派遣する必要はありません。
- ・研究費の支払いは年度ごとに必要ですが、契約は複数年にわたることも可能です。

共同研究のパートナー

本学のシーズ、研究成果を必要とする日本全国、世界の民間機関等が対象です。

経費について

●直接経費

旅費、研究に必要な備品・消耗品費等および、大学側研究補助者の人件費の総額です。民間機関等と大学側研究代表者の双方で協議して決定します。

●研究者や技術者を派遣する場合の経費

民間機関等から研究者や技術者を派遣する場合には、年間一人当たり42万円が必要です。

その他の制度

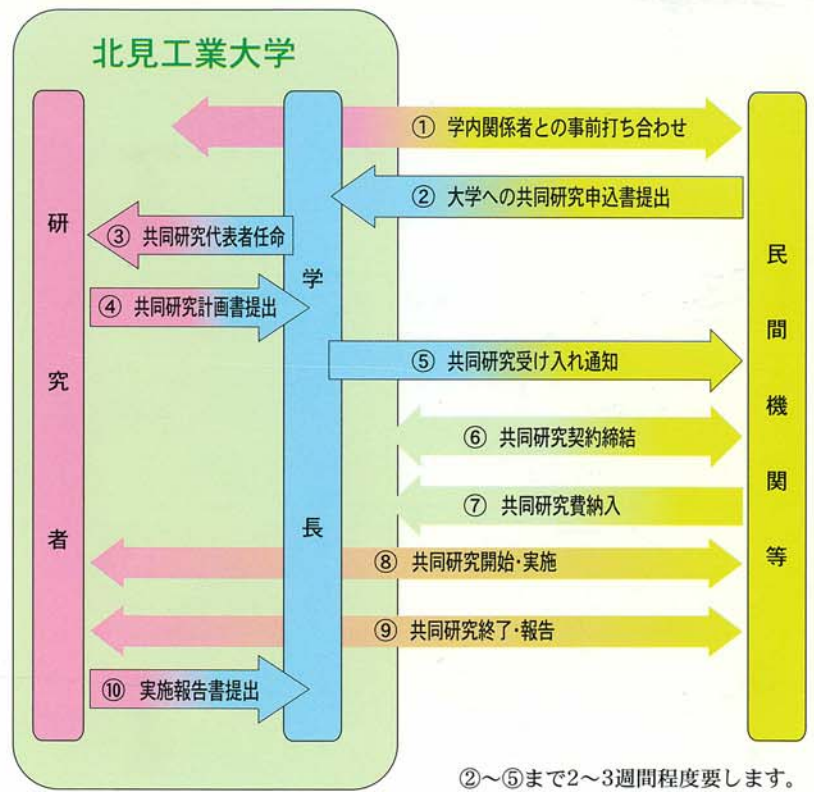
●受託研究制度

民間機関等が研究費を支払い、大学側のみで研究を行い、大学側から成果を報告するものです。

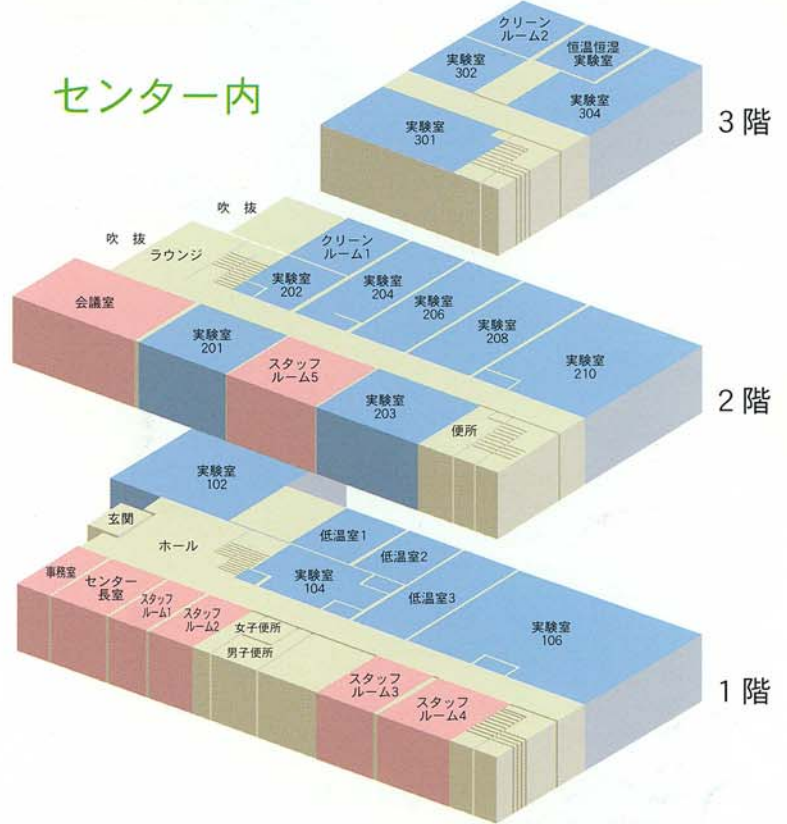
★研究費：研究に必要な直接的な経費と、その30%に相当する管理費を納めていただきます。

●奨学寄付制度

大学の研究・教育の助成を目的とし、民間機関等に寄付金へのご協力をお願いしております。



センター内



国立大学法人北見工業大学 地域共同研究センター
〒090-0013 北海道北見市柏陽町603番地2
電話 0157-26-4161(代表) FAX 0157-26-4171
E-mail center@crc.kitami-it.ac.jp

アクセス

北見市内から

- 1) バスの場合
北見駅を背に左側に大通ビルバラボ(旧東急)があります。国道39号線を挟んだバラボ向いの路線バス「三輪-小泉」線バス停から乗車「工大前」にて下車(約10分間隔、所要約5分) 徒歩 約10分
- 2) タクシーの場合
北見駅タクシー乗り場より「北見工業大学の地域共同研究センター」までお越しください。 約10分

